

# いんげんの栽培

華綾幼稚園 年少児 鈕持麻衣子

小田原協会では

各園が生物の飼育や植物の栽培について各園が研究を行い  
発表し合い、学んだ中で1園の事例をまとめて今回の研究発表と  
させていただきます。

## 環境設定

- 夏野菜の栽培に取り組み、野菜の成長を知ったり、収穫体験や栽培したものを食す喜びを実感することで植物に対する慈愛と、食への感謝の心を育む事を目的とする。
- 3歳・4歳・5歳児が、クラスごとに1プランターで栽培をする。
- クラスごとに好きな野菜をセレクトする。
- 種もしくは苗を用意し、植える作業から各クラスがスタートする。
- 子どもが興味を持てる野菜を選ぶ。
- 確実な成功体験が出来るよう育てやすい野菜を選び、収穫まで大切に育てる。

## 事例：3歳児クラス（19名） いんげんの栽培

### ねらい

- ・植物の成長を楽しむ
- ・自分で育てる事で、苦手な野菜にも興味を持って食べてみようとする。
- ・保育者と子どもが【野菜】を共に育てる事で、協力や共感し合い、愛しむ情緒を育む。
- ・育てる喜びを知り、次の栽培への関心が持てるように繋げていく。

### 導入

- ・おたよりノートがそらまめくんシリーズである為、親近感がある豆類を栽培する事で、関心を高める。
- ・日頃から触れているそらまめくんの絵本を再度読んで、豆類に興味を持てたタイミングでいんげんの栽培について話しをする。

## 5月14日 種まき

指の関節を目安にして、子ども達に見せ「種のお部屋を作ってあげて、そーっと寝かせてあげたら優しく土でお布団のようにかけてあげてね」と保育者が話すと、それを真似て慎重に作業ができた。



小さな種を見て、  
「この中にお豆さんが入っているの？」  
ピンク色の種（薬剤コーティング）に  
興味津々の子どもたち。  
「ピンクのお豆が出てきちゃうんじゃない？」と発言する子も居た。

2-3人ずつに分かれて、種植えの作業を行った。

保育者が位置を示し

指で穴をあける→種をそっと置く→土をかける。この作業を子ども達が協力して行った。



早く種植えをしたくて、身を乗り出す子ども達。

「赤ちゃんと同じだから、優しくそーっと触ってあげてね。みんなの声にびっくりしてお豆さんが出てこられなくなっちゃうといけないから、優しく優しくね」と話すと、自然と子ども達は静かな行動に変わり、動きもゆっくりと変化して、慎重に作業する姿がとても微笑ましい。

## 5月24日 初芽

最初に双葉が出た時は、小さすぎて「草じゃない??？」と言ってあまり関心を示さなかった子ども達も、この大きさになった芽を見て喜び「葉っぱが生えてきた～!!」と言って大はしゃぎ。



「これからもっともっと大きくなって、お豆さんが出来るのが楽しみだねー」と話すと「お水いっぱいあげなきゃね!」  
「いつお豆さん出てくるかな～」と発芽した事で、子ども達の期待値も上がった様子が伺える。

### 積極的に行動に移せない子ども…

興味がないわけじゃないけど、なんとなく行動できない、発せられない子どもに対して保育者が手をつないで、一緒にプランターを見に行ってみたり、「先生と一緒にお水あげるの手伝って!」と声をかけたりして少しずつ関心が持てるようなアプローチをした。

5月27日

日に日に芽も大きくなってきて、大喜びの子ども達。  
先生、昨日よりまた大きくなってー！と毎日クラスのプランター前に行くのが日課



「先生ーお豆さんにお水あげていい？」  
「はやくお豆さん出てこないかな～」と新芽の成長を毎日見る事に喜びを感じる子ども達。このあたりから、育てている実感が湧き始め自分達のお豆さん。という認識に変化した。

## じょうろの大きさ

プランターの容量が大きい為、水やりも一苦労だが、3歳では到底持てない大きなじょうろを保育者が運び、プランター前で子ども達と交代し数名の子ども達が協力して持ち上げたじょうろで一生懸命に水やりする姿が見られた。砂遊び用の子ども用じょうろであげる事も考えたが、この協力し合う姿を見て、大きなじょうろでの水やりを継続した。

子ども達だけで水道で水を汲んだり、運んだりする姿もあり見守っていたが、いっぱいに入水すると重くて持ち上がらず、やっと持ち上げた重たいじょうろが上手に持てず、ザブザブ自分に水がかかってしまったり、少しの水でじょうろを運びプランターに到着するも、水が少なすぎて水やりとして足りない。という姿もあった。

6月3日

毎日お水をあげて、成長ぶりを確認。ぐんぐん伸びる苗に嬉しそうな様子。  
「先生、今日お豆さん見に行く？」とこの時間を楽しみにしている。



「お豆さんどうかなあー」  
「ぼくより大きくなっちゃうかも！」  
毎日水やりをして、数日後には大きくなる  
苗の成長を目の当たりにして、自分達がお水  
をあげているからお豆さんが大きくなる事を  
実感し、大事に育てて愛しむ感情が芽生えた  
ように感じられて嬉しく思う。

## 戸外あそびのルーティンに変化！

園庭に出るとまず仏さまにご挨拶、その後あそびに入る子ども達が  
仏さまごあいさつ→お豆さん確認・水やり→あそびへと、自主的に変化した事に感動した。



はじめは、保育者が声をかけ  
「お豆さんにもおはようって言って来よう！」「今日はどんなかなー」「暑くて喉かわいてないかなー」などと誘導していたが、何も言わずに見守っていると仏さまご挨拶後にいんげんのプランター前に向かい自分達だけで、じょうろの水を汲みに行きやはり持てないじょうろの運搬援助を担当に訴え、みんなで協力して順番に水やりする姿が見られた。

## 栽培トラブル

各園で様々なエピソードがありました

- ・ 虫とり網を持って、園庭で夢中になって虫を追いかけていたところ  
誤って芋の畑に入ってしまう、網で芋の苗を折ってしまった。
- ・ ナス栽培で、虫除けと除草剤を間違えてしまい全て枯れてしまった。
- ・ トマトの収穫を待ちわびていた頃、朝見に行くと無残に動物にかじられて  
しまった痕跡。真っ赤に実ったトマトただただに無念。
- ・ ミニトマト、つやつや緑色のトマトを嬉しそうに次々 収穫する3歳児。  
まだ食べられないよ～と保育者の声…

6月13日

葉も増えて、プランターいっぱいになり茂っていく苗の様子にお豆が出来る期待が膨らむ。  
毎日変化していく苗の姿が楽しみで仕方がない！



## 積極的に行動に移せない子ども…の変化

「先生、一緒にお水あげたい」と言ったり、「今日もお水あげる？」と保育者に訪ねる姿があり少しずつ変化が見られる。  
直接的にいんげんへの関心が高まったのではなく保育者との関わりを求めている事と察するが、保育者と共に行動し栽培に関わられた。

友だちが、楽しそうに水やりをしている様子を見つめている姿もあったので、「一緒にお水あげてみる？」と声をかけるが、そこまでには至らず。  
無理強いせず、ひとりひとりの子どもの気持ちに寄り添い  
長い目で捉え、次年度の栽培に繋がるよう見守った。

## 6月18日 花が咲く

「先生ー！お豆さん花が咲いてる！」と大興奮の子ども達。  
「もうすぐお豆が出来ますよ〜」って教えてくれてるのかもね。と子ども達の期待値を上げる。  
「あー虫に食べられてる！！」と葉に虫食いの穴を発見。「はらぺこあおむしが来たんじゃない？」  
と言うと、「お豆さんまで食べられちゃうかな」「はらぺこあおむしどこ行った？」と大騒ぎ



## 7月1日 実り

子ども達にはいんげんの認識が難しく、保育者からお豆が出来ている事を発信。「どれ？先生お豆さんどこ？」と茎と豆の区別がわかりづらい様子であったが大きくなっているインゲンだけを収穫した。



細長くて茎に一体化しているように見えるいんげんが認識しずらく、いんげん自体のカタチを知らない子ども達にとってどれが豆なのかわからない様子。他クラスのトマトやナスのように「あ！出来てる！！」という発見にはならなかった。また、オクラも同様に実りを認識するには、保育者からの発信が必要であった。豆だけを収穫したが、1本茎と葉が付いた状態で収穫し、どのように実が付いているのかじっくり部屋で観察すれば良かったと、後から気づき反省点として残る。

## 7月1日 初収穫

収穫したいんげんを自分達で給食室へ持っていき、「お料理してください」と伝える。自分達が育てた野菜であるという誇らしげな表情が印象的であった。



いんげんを複数手にして、収穫できた喜びを実感できた様子であった。

「お給食さんに持って行って、お料理してもらおうか」と保育者が伝えると「そうしよう！」と喜ぶ子ども達。収穫して、さらに次には食べるという事に期待を持ち「いつ給食に出てくるかな～」と楽しみにしている様子が見られた。

収穫したいくつかのいんげんを部屋に持ち帰り開いて、そらまめくんの絵本を見ながら比べてみた。「そらまめくんと同じふかふかベッドみたいになってる！」と豆のまわりにあるワタに気づいた。豆粒を出してみたり、ワタを触ったり、匂いを嗅いだりしてインゲンについて知ることが出来た。



「ワー！ほんとにお豆さんが入ってる！」「中出してみたい？」「食べられるの？」  
「でも細くてこれじゃメダカさん入れないね」など、絵本のエピソードと重ね合わせて考える子どもの姿も見られた。いんげんを手を持たせてあげると、夢中になって中を触ってワタのふかふか具合を確かめてみたり「わたしにも触らせて！」「待って、ちょっと今ボクが豆を出してみるから」と子ども同士で会話を楽しみながらいんげんに触れる事ができた。



7月4日

本格的に水あそびも開始して、家庭から持って来てもらった洗剤やシャンプーなどの空容器で遊んでいた時、「先生水鉄砲でお豆さんにお水あげてもいい？」と子どもからの発言があり「それはいい考えだね！お豆さんもとっても喜ぶと思うよ」と話すとそれからは水あそびをしながら、水やりすることが日課となった。



## あまり関心が持てず、栽培に消極的であった子ども達も

水あそびの延長で、水鉄砲で水やりする事で、自然に栽培に意識が向うようになり保育者が一緒になくとも、プランター前に向い水やりをするようになった。

「え！？〇〇ちゃんも〇〇ちゃんもお水あげてきたの？お豆さんがありがとうって言ってたでしょ？」と保育者が言うと「お豆さんしゃべらないよ～」と嬉しそうな表情で満足げな姿にとっても嬉しい気持ちになった。

子ども達の【水鉄砲で水やりをする発想】から、抵抗なく栽培に関わりクラスのみんなで、いんげんの栽培ができた事に達成感が味わえた。

## 7月11日 いんげんを食べる

給食ワゴンに「〇〇組が育てたいんげんを使いました」とメモが貼られていた。子ども達にこれを伝えると「ヤッター！！」「どれ？どれがいんげん？」とみんな大興奮。

自分達が作ったいんげんが調理されたのを見て、触りたい食べてみたいという感情がわいた様子。普段、野菜には絶対に手を付けない子ども達にも食べてみる様子が見られた。

「みんなが作った、いんげんどう？」と聞くと「美味しい!食べられる!」という子も居て感動！！

どうしても野菜苦手で、食べる勇気が出ない子どもには、「ダメだったら出してもいいから、カミカミだけしてみたら？」と話すと口に入れることができた。



## いんげんを食べてみて

野菜嫌いの克服や、いんげん自体を好んで食べられたわけではないが自分達で育てた野菜に関心を持ち、調理してもらった喜びやどんな味だろう？食べてみたい！という意欲は明らかであった。その後の給食でも「先生ーこれいんげんだよね！」と気付いたり、「あ～また食べたいなあ」などと声が聞けた。

他園ではホットプレートやカセットコンロを使用して目の前で焼いたり、茹でたりして塩やマヨネーズの味付けだけで食べてみる経験を通してより、食欲を高めている園もあった。

芋掘りして→園庭でふかし置いておき、お昼にできたお芋を食べたり  
カップケーキづくりや焼き芋大会などを行っている園もある。  
きゅうりを子ども達が塩もみして一晩寝かして浅漬けにし、丸かじりをする

このような食事体験を取り入れて、今後の食育に繋げていきたいと感じた。

## まとめ

- ・身近な絵本やおたよりノートのキャラクターを題材にした事で豆（いんげん）への親しみが早く、子ども達の興味が増した。
- ・種から芽が生え、苗に成長するまでにさほど時間がかからず飽きずに育てる事が出来た。
- ・毎日水をあげたり、「大きくなーれ」など声掛けをする事で自分たちが育てている実感と早く出来ないかなという期待感が伝わってきた。  
※インゲンの収穫までの成長がわかりやすかった。
- ・可能であれば複数の野菜を比較しながら、栽培をしてもより学びや気づきが深くなるのではないかと感じた。
- ・食す。ことまで体験できた事で、より印象強く残った様子。

## 感想

野菜の栽培を通して、子ども達の発見や気づき、発せられる言葉から関心の表れを感じ、私自身 学ぶ事が多くあった。

元々草花や、虫などは大の苦手な嫌煙していてこの研究に対しても不安があったがクラスでいんげんの栽培をしてみて、野菜を育てて食べるという一連の流れを子どもと一緒に実体験する事ができ子ども達だけでなく、私自身の成功体験となった。共に育て、実りや食を共感し合う事でクラスの一体感や達成感を感じることもなりこうした経験が今後の保育につなげていけるであろうと思う。

また、心身共に成長したこの2学期に再チャレンジする事も良いと感じていたが、収穫時期が難しい。とその先に進めずにいたが、他園の新年度に収穫する事例を聞き、これもまた今後実現していきたいと思う。